ご挨拶

第18回日本Awake surgery学会を2020年10月３日国際医療福祉大学赤坂キャンパス（東京）において開催させて頂きます。本学会は、覚醒下手術の普及と安全性の向上、言語機能を中心とした脳科学の進歩を目指して、覚醒下手術に関係する、脳神経外科医、麻酔科医、脳神経内科医、リハビリテーション科医、言語聴覚士、言語学者などが中心となって2003年に第1回研究会が開催されました。その後、本学会は2012年、麻酔・手術・機能評価の方法論を中心に、詳細に纏めたガイドラインを英文と和文で公表しました。この分野でエキスパートが技術の均てん化を目指して作成されたガイドラインは世界的にも初めてのものであり、高く評価されました。更に本学会が行う研修会受講が保険診療に必須のものとなり、脳神経外科手術においても大変重要な役割を果たすものになってきました。

　Awake surgeryは言語機能、運動機能の評価に加え、近年さまざまな皮質下線維、高次機能の評価が行われるようになり、まさに成熟期を迎えようとしております。そこで、本学会のテーマを「夢と希望への挑戦」とさせて頂きました。Awake surgeryでは、脳の手術を安全に行うことが第一ですが、それに加えニューロサイエンスへの貢献、機能回復を目指した、あるいは機能回復を見越した手術戦略、手術麻酔の進歩など新たな切り口での研鑽や目標を各々が持つことによって、もう一歩治療を前進させる必要があると考えます。皆さまの努力によってもたらされた進歩の結果、最終的には患者さんに還元する日が来ることを願って挑戦していただきたいからです。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出されている中でのご挨拶・演題募集となりますが、学会開催時には収束し、皆さまが参加できる環境にあることを願いまして、ご挨拶と致します。皆様のご参会、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

阿部竜也